

凡 例

- 一 本書に収録されている文書は、横浜市歴史博物館に寄託されている小岩井家（旧鍛冶ヶ谷村）文書から選択し、参考にした栗田家（旧岩瀬村）に所蔵されている文書を補足して収録した。
- 一 本書において文書は年代順に配列した。但し一部年代が不明のものがあり、内容によって適宜配列した。
- 一 各文書の表題は「横浜市教育委員会資料 小岩井家所蔵資料」記載の資料名を採用したが一部内容が分かる表題に変更した。
参考のため同委員会が付した資料の分類と整理番号を各解説の末尾に記載した。
- 一 漢字は原則として常用漢字を用いた。旧字体、異体字は現在慣用されている新字体に改めた。また、変体仮名は平仮名、片仮名に直した。漢数字は、そのまま一、二、三・・十、壹、貳、参・・捨、廿、卅とした。
- 一 改行は原文書によったが、釈文の都合で適宜改行した。また、闕字や平出などは字間を詰め、行を揃えた。
- 一 読みやすいように、適宜読点（・）及び中黒（・）を挿入した。
- 一 合字などを含めて、次の文字は以下のように直した。
ㇿ↓より 与↓と 者↓は 江↓へ 茂↓も ニ↓に ハ↓は 之↓の 而↓て
- 一 欠損、虫食い、汚れなどで判読不能の箇所は伏字（□）で表示した。
なお、□の数は必ずしもこれらの文字数を表示するものではない。
- 一 誤字、脱字、あて字など意味不明の箇所は、下に（ ）内に適宜現用の文字に直して示した。
- 一 現在慣用の表音とするため清音に濁点及び半濁点を付した。
- 一 原文の振り仮名はそのまま、読み方が必要と思われる文字にはルビを振った。